令和6年度

On the Road

高松市立円座小学校

校長からの発信について

私の母校である円座小学校の校長として赴任して、３年目となります。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本校は、学校だよりとは別に、基本的には、学校経営方針や校長の考えをお知らせする「On the Road」を原則毎月１０日前後に保護者の方に配布しています。文字だけの文書ですので読まずに捨てられることがありますが、本年度も、自由気ままに書かせていただきます。節目には、学力テストや学校評価の報告等、かっちりとした文書も書きますので、どうぞご安心ください。

また、子どもたちのがんばりをすぐにお知らせできるようにブログを授業日に更新しています。さらに、校長室西側の掲示板に、１か月の子どもたちのがんばりを振り返る「月刊E-なかま」を掲示していますので、機会がありましたら、是非ご覧ください。

学校経営目標

本年度の、円座小学校の教育目標は、昨年度に続き、「捉(とら)える　繋(つな)がる　拓(ひら)く　円座っ子」です。私は、次のようなイメージで捉えていますが、この一連の流れを通して、円座っ子たちに、よりよい社会や幸せな人生を築き上げていく力が身に付くように願っています。

「捉える」とは「学習や身の回りの課題を自分事として把握する」こと
「繋がる」とは、「他者と協働して、あきらめずに課題を解決する」こと
「拓く」とは、「新たな気付きをもとに、変化を創る行動を起こす」こと

私が円座小学校に赴任した当時から、円座小学校の子どもたちには、「困難な状況でも前を向ける子」に育ってほしいと願っていました。これからの時代を心豊かにたくましく生きていくためには、絶対に必要な力だと感じています。ただ、これを実現するためには、厳格な指導だけでは厳しいと感じています。個人的には、「前向きな楽観」「ちょうどいい加減」がキーワードになるのではないかと考えています。

「前向きな楽観」とは、「あえて余力を残す」ことと深く関連があります。「余力を残す」とは、決して手抜きではありません。むしろ、やるべきことを選び、それに尽力することは、積極的な態度であると言えます。近年、将来の予測が難しいことから、全てを完璧にこなそうとするのは、土台無理な話です。「なんとかなるさ」と心にも余力を残したいものです。

また、中国の思想家の老子が、「この道を体得している者は満ち足りようとしない。そもそも満ち足りようとしないから、壊れてもまたできあがる」と言っています。大勢の人が、困難な課題に対して、解決を諦めてしまうのは、短期間で全てを解決しようと求めるからです。**適当**でいいのです。**適当**というのは、「ちょうど**いい加減**」を意味しており、求めるレベルの７割、８割程度と捉えている人もいるようです。ちなみに、私はよく、「過半数で 100 点」という捉え方をします。過半数をとれば、関取は勝ち越しだし、政権も維持できます。半分でも、結構十分だと思えませんか？（小学校のテストの点数については、半分では厳しいか・・・）

何事も、余力をもって続けた方が、最終的には成果がでるような気がしています。「前向きな楽観」や「ちょうどいい加減」が、人生をたくましく生きていくためのコツなのかもしれませんね。

校長　宮竹　弘樹